

第1回委員会における意見への対応(案)について

委員からのご意見	対応(案)
<ul style="list-style-type: none"> 四国内の各重要港湾が同じ方向を向くためには過去のビジョンから何が達成できていて、何が達成出来なかったか振り返りが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、資料2-2の通り整理しています。
<ul style="list-style-type: none"> 港湾が良くなれば全てが解決するわけではなく、「危惧される将来シナリオ」を回避するよりは、現実を受け止めて四国の港湾がどうあるべきかを検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、中間とりまとめ(案)「Ⅱ.四国の港湾が果たすべき役割」において、四国内外における情勢を踏まえ、四国の弱みや脅威を克服し、「四国の持続可能な発展」を実現するための港湾の役割を整理しています。
<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化による海面上昇等といった自然条件の変化も盛り込むべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、中間とりまとめ(案)「Ⅲ.四国における港湾の未来像」のうち「3.自然環境の変化に対応する港湾」において、地球環境の変化による気象災害リスクに対応する施策を位置づけています。
<ul style="list-style-type: none"> 港湾・物流分野で働くことが、労働者にとって魅力的にならないといけない。 高齢者が働きやすい職場作りのあり方についても検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、中間とりまとめ(案)「Ⅲ.四国における港湾の未来像」のうち「これまでのビジョン等に基づき取り組むべき施策」に、港湾で働く人々等に配慮したバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を位置づけています。
<ul style="list-style-type: none"> 運輸業の物流分野では課題が山積しており、モーダルシフトやMaaSの推進にあたって港湾事業と政策を上手く連携していくことが重要。 農林水産物輸出等の新たな分野の参入が予想される中、港湾のみならず、交通全体の最適化・情報化を考えてハード整備を進めることが必要。 港湾の役割だけでなく、道路とのつながりや、街と街とのネットワークについても組み合わせて考えることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、中間とりまとめ(案)「Ⅲ.四国における港湾の未来像」のうち「1.労働力不足に立ち向かう港湾」において、「背後の幹線道路網等との円滑な接続」や「背後都市や陸上交通との連携も視野に入れつつ、各技術や施設を規格化・標準化し、(略)それらを有機的に連動させる」といった施策を位置づけています。この他、「2.地域に新たな価値を産み出す港湾」における「陸海の結節点である港湾を活用し、地域交通の利便性を向上するため、(略)バースウィンドウの予約管理システムの導入等により、MaaSの取組を促進する」、「地域の農林水産物の付加価値を高めるため、(略)情報通信等の新たな分野を取り入れた温度管理等により、地元港湾を活用した品質管理の効率化等を図る。」等、背後都市や陸上交通との連携を視野に入れた施策を位置づけています。
<ul style="list-style-type: none"> 港湾空間の活用における付加価値の創出については、港湾のみならず都市としての魅力向上につながる。港湾がどのように後背地の都市圏を含めた地域の魅力の向上につながるか、地域の経済の活性化につながるかということについて幅広い議論をすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、第5回WG(臨海部における産業の付加価値創出)において、背後産業の変化にともなう将来の港湾空間のあり方について、ご議論頂いております。